

今月の 我がマチの 一番星☆



調理作業と盛り付けの様子
(町民センター)

安全でバランスの良い 給食サービスを提供



多田榮子さん

「家で倒れていたこともあったので利用者に一言声を掛けてから次の家庭に行き、表情が良くない場合は本人と話をして対応しています」と代表の多田榮子さん。早来地区では48人が給食ボランティアとして登録し、「毎週水曜日に約50食分の昼食を作っています。8〜9人のグループで作るため、1人当たりの調理回数は月に1度。8人にする理由は「ベテランの皆さんなので7人でも作業はできますが、仕事の負担が大きくなると、けがや事故が増え、それを防ぐためです」と語ります。以前は下準備を前日にしていました。食品管理の問題などで当日の朝8時30分に食材が届き、伝票チェック後に調理を開始。50食分の盛り付けから配送まで30分という手順

巡回しながら安否確認と防犯活動



菅原昭雄さん

「お世話になった地域に貢献したい」と昭和62年に自衛隊を定年退官した後に始めたボランティアの活動歴は20年以上になる菅原昭雄さん(早来大町)は「人に頼まれると断れない性分で、高齢者に給食を配送する運転ボランティアの代表を依頼されたのは3年ほど前。現在15名の会員が毎週水曜日

日に早来地区を巡回しています」と説明してくれました。菅原さんは運転ボランティア以外にも、早来の交通安全協会や防犯協会にも所属し、子ども安全パトロールも行っています。「配送のときは青色回転灯をつけた自家用車を使っています」と話し、「町内を走ることによって犯罪防止にも役立っているんですよ」と笑顔で語ってくれました。

高齢夫婦や一人暮らしの高齢者が対象で早来地区は33件が利用。顔見知りの人も多く、気さくに声をかけたり、話しかけられ、安否の確認も担っています。受け持ち区域を回するには1時間以上は必要なので、給食が出来上がる11時ころまでに町民センターの調理室に行きます。「週に1回の給食ですが、自分たちが来るのを待っていてくれることに感謝しています。温かいうちに早く届けようと心がけているんです」と。しかし、安全運転にも気をつ

けなければなりません。

「安平町になり追分地区でも民間会社の従業員の方が企業ボランティアとして取り組み始めたとのことですが、地域が高齢者を支えていくことは良いことだと思います」とこれからも福祉の輪が広がっていくことを期待していました。



配送にも使う自家用車と服装

の良さ。「バランスの良い食事に配慮し、調理法などを工夫しているんですよ」と主婦の知恵をフル回転させています。「同じ班の人たちは楽しそうに作業をしています。市販では得られない手作りの味を提供したいという気持ちからかもしれません。また、安全で安

心な食事を作ることを最優先に今まで食中毒は起きていませんが、その背景には皆さんの日ごろの努力があったからです」と振り返る。基本となる手洗いにも細心の注意を払い、髪の毛を触つただけでも手を洗っています。作業場では履物を換えて、調理用の

キャップやマスクを着用し、盛り付けには手袋を使用。できるだけ保存期間の長い食材を購入し、原則は加熱だそうです。最後に「会員の高齢化が進んでいます。若い人の協力をお願いしたい」と多田さんは呼び掛けていました。